

パソコン講座

はじめてのブログ作成

平成22年4月22日(木)、23日(金)

最近新しいメディアとしてホームページと共に注目を集めているブログ(Weblog)について、目的に沿った作成の仕方や利用者にとって、使いやすく、見やすく、わかりやすくするためのポイントを講義や実習を通して学びました。

総合教育センター情報・産業教育部の専門主事の丁寧な指導のもと、初めてのブログ作成に戸惑いながらも、自分だけのオリジナル作品をつくるために、レイアウトや写真の取り込み、入力する言葉、動画のアップの仕方などにこだわりながら、真剣なまなざしで受講する姿が印象的でした。
(講座参加者 13名)

〈研修内容〉

- 講義 『ブログ登録の際のモラル・セキュリティについて』
実習 『ブログの作成・登録』 『デジカメによる写真撮影と画像処理等』
『ブログ公開の際の工夫』 『作成と相互評価』
講義 『ブログ公開のために』
講師 総合教育センター情報・産業教育部専門主事



受講者アンケートから

- ☆早速、1日目終了後の夜、自宅で作成してみました。思ったより簡単にでき、講習会の成果があらわれました。
- ☆仕事ではもちろん、趣味の世界でも、ブログを使ってどんどん情報発信していきたいと思っていますが、更新が大変そうです。
- ☆断片的なブログの知識を持っていたが、今日の研修で整理がついた。また、写真加工など新たな知識を習得できた。
- ☆今までは閲覧するだけでしたが、書いたり、コメントを入れたりとブログをより楽しめるようになった。

家庭・幼児教育講座

子どもの心根を感じよう①～不登校の子どもたち～

平成22年5月19日(水)

喫緊の課題である不登校について、子どもたちの思いや願いを知るとともに、親や周りの大人がどのように関わればいいのかを小木曾先生の講義を通して学びました。

「人間は一人ひとりが自分の意思で人生を歩むという点では同じであるが、その歩み方や生き方はそれぞれ異なっている。」という基本的な視点から、子どもにとって「安心」と「自信」と「居場所」が必要なこと。子どもは「自ら歩き出す」と信じ、そして、回り道をしてでも自ら育ちたいと思っていることを理解すること。子どもとの関わりの中で、その子の役割や存在価値を伝えていくこと。また、家族の安定・安心がその子の安心を支えていること等、親として、また、地域の大人として改めて考える機会となりました。

「私のやっていることは人生の〔案内所〕ではなく〔休憩所〕である。」という小木曾先生の言葉が印象的でした。
(講座参加者 42名)

〈研修内容〉

講義 『親子の成長を不登校の子どもたちから考える』

講師 小木曾 計男 飯田女子短期大学兼任講師
長野県スクールカウンセラー



受講者アンケートから

- ☆不登校の子どもを持って悩みましたが、本当に今日のお話のとおり、回り道でもしっかりと歩むことができるようになった子どもを誇らしく思いました。
- ☆目標志向から役割志向へという部分が印象に残りました。クラスや学校内での役割を見出すことで生徒の居場所を作ってあげたいと思います。
- ☆日頃の自分を見直し、力を得て、やる気いっぱいになりました。「人は違ってまたよい。皆で認め合い、穏やかに和やかに生きていきたいと思います。」
- ☆「安心・自信・居場所」その訴えを日々の生活の中で感じているように思い、それに対して、自分がどれだけ応えられているのか、考えさせられました。

家庭・幼児教育講座

子どもの心根を感じよう② ～心を結ぶコーチング～

平成22年5月19日(水)

「子どもと話し合い、問いかけ、考えさせ、答えと行動を引き出す」というコーチングの手法を通して、子どもの心の内側を理解しながら自立に向かわせる関わり方について学びました。

全身で「あなたのこと聞いているよ」と合図を送り、子どもの言葉の向こう側にあるものを感じながら「聞く」こと。Youメッセージでなく、Iメッセージ（「わたし」を主語にして自分の内側で感じたことを主観的事実として伝える）で伝えられること。Open Question（[What][Why][How]等考えて答える必要がある問い）で問いかけることの大切さについて、実際に2人組や3人組になり体感しながら研修しました。聞いてもらえることの心地よさに浸りながら皆さんの笑顔があふれる研修となりました。
(講座参加者 44名)

〈研修内容〉

講義・演習『子どもの思いを受けとめ、自立に向かわせるコミュニケーション』

講師 渡辺 照子

TERUコミュニケーションステージ代表



受講者アンケートから

- ☆このコーチングの技法を使って、関わっている人の心を大切にして、温かく、人を大切に生きていきたいと思いました。「失敗の中に意味や価値を見出す…」忘れられないフレーズです。
- ☆コーチングの実際で、つついアドバイス的なことを言いたくなってしまいう気持ちを抑えるのがむずかしかった。
- ☆感情に流されずゆとりを持って子どもの気持ちをくみ取れるのにはどうしたらいいのか苦しんでいた面に具体的な例を教えていただき、現場に帰って生かそうと思いました。
- ☆にこやかな講師の方に引き込まれ、とても前向きな気持ちになりました。

生涯学習推進講座

- ①スキルアップ! コミュニケーション ～心をつなぐひとづくり～
- ②スキルアップ! ファシリテーション ～学びをつなぐまちづくり～

①平成22年5月28日(金)、②6月18日(金)

住民が主体的に地域づくりに関わる手法としてワークショップなどの参加体験型の学習が地域において行なわれています。そんな学習過程を援助する役割である「ファシリテーター」のスキルを身につけるために2回に分けて講義と演習により研修しました。

講座では、参加者の参加意識を高めるための参加者とのコミュニケーションのとり方や参加者が居場所感・出番感・充実感を感じるための方法について学んだり、参加者が積極的に関われるためにはどのようなことに心がけ、準備をし、支援していったらよいかについて、実際のワークショップを通して参加者自らが体験しながら学びました。

研修講座終了時には、参加者の皆さんが、ずっといっしょに生活してきた仲間のように、心を開き、きらきらした姿を見せてくれたことがこの講座の持つ価値を物語っていました。

(講座参加者 ①37名 ②32名)

〈研修内容〉

講義 『心をつなぐひとづくり』【ワークショップ】(5/28)

『学びをつなぐまちづくり』【ワークショップ】(6/18)

講師 佐々木 英和 宇都宮大学生涯学習教育研究センター准教授



受講者アンケートから

☆ワークショップとその意味や裏側（今、どのように考えていて、これを行なったか、そして、どう感じたか）をその瞬間、瞬間に伝えていただいたので、自分でもやってみたいと思いました。

☆ファシリテーターの役割の大きさを感じました。実際に自分がファシリテートするときは、大変な気遣いが必要だと思いました。

☆ワークショップを通して、難しい理論を体験できたことで、わかりやすくなった。

☆どうしたら人の心をつかめるのか、同じ方向を向いてもらえるのかが少し理解できた。

まちづくりははじめの一步 ～生涯学習事始～

生涯学習推進講座のスタート講座として、参加者相互が課題を共有しながら地域の生涯学習の現状や問題解決の糸口を探っていこうという研修講座でした。

午前中の講義では、社会教育において、学校（比べる世界）・地域（役割の世界）・家庭（かけがえない世界）の三角形のバランスが大切であることを話されました。特に、社会教育が、【職】の世界（「お金になる世界」「カチカチ時間（追いかけられるような）」）ではない、【役】の世界（「地域における役割の世界」「さらさら時間（砂時計のような）」）の中で、30年後のわたしたちのまちを描きながら「どのように【役】の世界を大きくするのか。」「どのようにまちに新しい【役】を作り、組み入れていくのか。」を考えていくこと。そして、4つのユニット（血縁・地縁・友縁・職縁）を活かしながらまちづくりに取り組んでいくことの必要性について強調されました。

午後は、3名のシンポジストをお迎えし、「どのように地域が私を育てたのか。」「社会教育の手法や企画のあり方」「これからの課題」の3つの柱についてそれぞれの体験を話していただきながらこれからの社会教育や公民館のあり方について考え合いました。（講座参加者 150名）

〈研修内容〉 講義『生涯学習事始』講師 長谷川 幸介 茨城大学生涯学習教育研究センター 准教授
シンポジウム『歩みだして見えてきたもの』
コーディネーター：長谷川幸介
シンポジスト：小岩井俊忠（松本市里山辺公民館長）中村 美子（上田市教委生涯学習課主査）
今村 浩二（飯田市丸山公民館主事）



受講者アンケートから

- ☆長谷川先生のお人柄のなせる楽しく、社会教育とは、人間同士のつながりを深め、次の世代を作っていくことだと改めて教えていただいた気がしました。
- ☆シンポジウムが今まで経験してきた中で、一番良かったと思います。いろいろな意見が出されたことや多くの発言があってよかった。
- ☆社会教育のあり方や公民館の今後の方向性についての討論は、非常に参考になりました。
- ☆内容の濃い研修でした。はじめの一步には少し濃すぎる感じもしましたが、事例なども聞くことができて良かったです。
- ☆シンポジウムが核心を突くものであり、主事4年目の私には重要な指針を与えていただくことのできた研修講座でした。

セミナー

ケータイ・ネット社会の落とし穴

平成22年6月12日(土)

ケータイやインターネットにより「今現実に子どもたちに何が起きているのか。」を話していただき、子どもたちが被害者にも加害者にもならないために、親（大人）が正しい知識、対処法を知らなくてはいけないことを学ぶことができました。

特に、大人がつかみきれていない子どもたちの現実（なりすましメール、チェーンメール、学校裏サイト、ネットいじめ）について最前線の情報を知ること、これらの危険から子どもたちを守るための、親（大人）のあり方について考え合うよい機会となりました。

今年度は、上田市教育委員会と上小地区社会教育委員連絡協議会の共催で上田市上田創造館で出張講座としてセミナーを実施しました。
(講座参加者 63名)

〈研修内容〉

講義『ケータイやインターネットによる諸問題とその解決策』

講師 安川 雅史 全国webカウンセリング協議会理事長



受講者アンケートから

- ☆「わからない」では済まされない、自分の中で知らないケータイやインターネットの実態を知ることができて勉強になりました。
- ☆犯人探しよりもまず自己防衛という概念から問題や子どもとどのように向き合ったらいいのかを学ばせてもらいました。
- ☆単に禁止するだけでなく、親が子どもを「守る」ことが重要であると思いました。子どもを守るためには努力して守らなければならないことがあると思いました。
- ☆子どもたちの現実をしっかりと捉え、見つめていく大人の存在が重要であると思った。

家庭・幼児教育講座

健やかな心と体を育てよう① ～夢中を引き出す遊びと関わり～

平成22年7月1日(木)

午前中の講義では、現代の子どもたちの持つ課題に触れながら、そんな子どもへの関わり方として、役を演じる大人ではなく、監視する目線の大人ではなく、「あなたと過ごすこの時間が大切だよ」と自らもその遊びの時間を楽しめる大人であることが大切なこと。そして、そのために、自らの心を開放し、子どもとの関係を紡いでいくことの重要性について学びました。

午後は、二人組や三人組、そしてグループと、遊びを実際に体感しながら、遊びをさらに楽しくするためのちょっとしたコツや遊びの考え方について研修しました。特に、夢中になって遊び、意識的でなく、自然に関わり合うこと〔コミュニケーションをとること〕の心地よさや遊びのあとの振り返りの重要性について学ぶことができました。(講座参加者26名)

〈研修内容〉

講義『夢中を引き出す遊びと関わり』 演習『心と体の発達を育む運動遊び』
講師 犬飼 己紀子 松本大学人間健康学部教授



受講者アンケートから

- ☆人的環境としての大人（保育士）の関わり方や子どもとの向き合い方について教えていただく中で、どのように子どもの体と心を育てていったらいいのかを考えることができた。
- ☆ただ運動遊びをするのではなく、人との関わりや活動のプロセスについて振り返ることが大切だなあと感じた。
- ☆子どもの遊びを夢中になるまで見守ってこなかったことを実感しました。与えてしまう活動が多くなってしまっている自分に反省しました。
- ☆気づいたら夢中になって遊んでいる自分がいました。久しぶりに素の自分に戻り、自分らしさを思いっきり出せたすがすがしさを感じました。

男女共同参画フォーラム

～東京大学教授の“爆笑”子育て寄席～

平成22年7月10日（土）

岡谷市男女共同参画推進市民の会の皆さんによる朗読劇「仕事と家庭の両立」の発表では、男女共同参画の取り組みを、分かりやすく一般の方にも理解してもらえるよう工夫している活動の一端を見ることができました。

瀬地山先生の講演では、自分の子育ての様子を織り交ぜながら男性の家事や育児への参加、ワークライフバランスによる男女共に働きやすく子育てしやすい環境整備の重要性について笑いのあふれる分かりやすい講座となりました。また、男性自殺者の増加や男性が受けている偏見などにも触れ、男性の一頭立て馬車ではなく、夫婦という二頭立て馬車で家族という宝物を運ぶことの意味についても学ぶことができました。最後は「象の背中」というDVDを観ながら、受講者それぞれが「家族」「命」「愛」等について感じ合う時間となりました。

（講座参加者243名）

〈研修内容〉

○朗読劇『家庭と仕事の両立』 岡谷男女共同参画推進市民の会の皆さん

○講義 『東京大学教授の“爆笑”子育て寄席』

講師 瀬地山 角（東京大学大学院総合文化研究科教授）



受講者アンケートから

☆涙が出るほど笑ってしまいました。意識を変えるのは難しいかもしれませんが、自分でできることからコツコツやっています。男性への性差別、気をつけます。

☆子育てしやすい社会、親（高齢者）と一緒に暮らしていける社会とは、男女がお互いを思いやることから成り立っているのだろう。男女平等もやっぱり思いやりから成り立っていると思えました。

☆子育て世代で、今後の生活を見直す一つのきっかけになりました。最後のDVD「象の背中」が心に残り、家族や夫に対してのかかわり方を考えさせられました。

☆男女にとらわれず、自分らしさを生かせる社会にしたい。能力に応じた働き方が認められる職場であってほしいと思いました。

生涯学習推進講座

大好き！公民館 ～まちの縁側づくりに男性の力を～

平成22年7月13日（火）

午前の講義では、「新しい公共は公民館から」と題し、歴史的な事実を元にしながら、地縁関係をベースにしたかつての地域社会が弱体化した現実や今こそ地域社会の再生に向けて社会教育が参加と自己責任による新しい公共という形で地域づくりを担っていく必要があることを学びました。また、公民館の役割として、地縁に基づく共同体ではない交響体としての地域共同体の構築や個の要望に基づく生涯学習から地域社会の要請に基づく社会教育活動の推進という役割を担っていることを学びました。

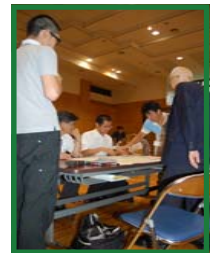
午後は、自分の事業を地域課題・参加対象の視点から見つめ直し、地域財産選び、事業の改善を図っていく筋道をグループのメンバーで情報交換しながらワークショップを通して研修しました。（講座参加者63名）

〈研修内容〉

講義『新しい公共は公民館から～男なら今こそ出番だよ～』

演習『新しい出会いをつくるためにできること』

講師 吉田 博彦（NPO教育支援協会代表理事）



受講者アンケートから

- ☆今後の地域社会に何が重要かということについて歴史的な流れをふまえて、教えていただき、社会教育の重要性について再認識することができました。
- ☆今後の公民館活動に結び付けられるようなワークショップでとても参考になった。地域課題や地域の財産をもう一度見直し、新しい出会いを創出していきたい。
- ☆「社会教育」「生涯学習」という言葉が、なかなかしっくりこない印象があったのですが、今日の吉田先生のお話から少しずつ輪郭がわかってきたような気がします。
- ☆実践的な内容の研修で、事業を組み立てる時に、考えるべき点がわかりました。
- ☆対象者をしぼり、その時だけのものにせず、少しずつステップアップすることを考えて、計画を立てていこうと思った。地域課題を考え、地域財産を生かすことが大事だと気づかされた。

生涯学習推進講座

深めよう！地域の絆 ～世代を越えた学びあい～

平成22年8月26日（木）

午前の講義では、松本大学周辺の住民と学生との交流から、大学生（若者）が地域の方々に叱られ、感謝され、助けられながら育っていく具体的な姿、若者たちが地域の「人」と関わる中で、様々な場を経験することができ、コミュニケーション力を高め、さらに一步進んで地域の方々のことを考えながら行動する力がついていったという事例が話されました。そのような姿から、地域がそんな若者たちを必要としていることや若者たちも地域の中で育てられていることについて学びました。

午後は、小諸の地域食材を生かした「おむすび」づくりに取り組んだ小諸商業高校生と、それを支えた地域の食の活動を推進している方、それぞれの事例発表や、リヤカーを引き、松本市巾上（松本駅アルプス口近辺）でお年寄りたちに野菜の引き売りを行ないながら、地域のお年寄りとの交流により成長する松本大学生の事例発表がありました。最後に、グループ毎に分かれて地域づくりと若者の関わり方について情報交換を行ないながら考え合いました。

若者と地域が活動を通して出会い、「共に育ち合い」ながら地域づくりに向かうことの意味や価値について学ぶ機会となりました。
（講座参加者 52名）

〈研修内容〉

- 講義『世代を越えた学びあい』 講師：白戸 洋（松本大学総合経営学部教授）
- 事例発表①『地域と協働した商品開発』 浅井勝巳さん（小諸商業高校講師）
中島敬太郎さん、駒村江美さん（小諸商業高校卒業生）
高地清美さん（NPO法人こもろの杜）
- ②『野菜のリヤカー引き売りで、まちに暮らす高齢者の生活をつなぐ』
建石智香さん（松本大学）
- 情報交換『学びあいが地域を変える』 講師：白戸 洋（松本大学総合経営学部教授）



受講者アンケートから

- ☆具体的なできごとを織り込み、ポイントが整理された講義のおかげで、わかりやすい内容でした。白戸先生のお話は生き生きとしてあたたかい気持ちになりました。
- ☆若い人々が地域の中で生きていく姿に感動しました。地域を活性化し自分たちも達成感を持って生きる姿は今、もっとも求められていることだと思います。
- ☆このような若者を育てていくのも公民館の仕事だと思います。また、多くの人と出会い、体験を重ねることが人を成長させるのだと実感しました。
- ☆さまざまな団体や所属の方と話すことができ、新しい角度から考えることができました。

家庭・幼児教育講座

健やかな心と体を育てよう② ～地域で支える生活習慣づくり～

平成22年9月7日(火)

午前の講義では、昭和30年前後の子どもたちの生活を写真で振り返りながら、当時の子どもたちは、遊びながら大人になる準備としての生きていく能力を培っていたことについて学びました。高度経済成長を経る中で、子どもたちから、労働が消え、異年齢集団での遊びが消え、家庭の中にあつた本気で生き生きとした言葉が失われてしまった現代社会において、定型教育（学校）とは異なる食育、眠育、気育を基盤とする家庭の「養育力」が大切なことや家庭を越えた地域の中で、何ができるのかを考えていくことの大切さについて学びました。

午後は、中野市の郷土食を通じた食育活動と豊丘村の「生活リズム改善村民運動」の事例発表やグループでの情報交換を通して、家庭の意識を変えるために地域ぐるみでくり返し取り組んでいくことの重要性について学びました。（講座参加者 27名）

〈研修内容〉

講義『地域で支える生活習慣づくり』

講師 増山 均 早稲田大学文学学術院文化構想学部教授

研究協議『子どもの生活習慣を考えよう』

事例発表①「郷土食の伝承を通じて広がる食育の場

～中野市食生活改善推進協議会の活動から～

原 楫 長野県食生活改善推進協議会顧問

事例発表②「豊丘村生活リズム改善村民運動」

宮下 公 豊丘村教育長

原 みほ子 同 教育委員会社会教育係長

情報交換 コーディネーター：増山 均 早稲田大学文学学術院文化構想学部教授



受講者アンケートから

☆昔の写真を使つての話が、懐かしく、分かり易く、参考になりました。

☆物は豊かでないが、心豊かだった時代に戻ることは難しいが、一人ひとりの意識を変えていくことは今からできるというヒントを得ることができた講義でした。

☆地域の教育力が求められている背景が、子どもの労働の消失、集団遊びの消失という視点で語られていたことが分かり易さにつながっていたと思いました。

☆今は、子どもだけでなく、親子の生活習慣を考えていかなければいけないのだと思いました。そのためには、地域ぐるみでということが大きな力になると思います。

セミナー

共催：男女共同参画センター“あいとぴあ”

きらめきながら生きるために ～地域社会の絆の中で～

平成22年9月14日(火)

午前の講義では、表面に見える障害や障壁を取り除くという感覚（バリア・フリー）ではなく、障壁やちがいに対して好奇心を持ち、「話したい」「コミュニケーションをとりたい」という人間の自然な感覚（バリア・オーバー）の重要性について話されました。「まず、障害を「異文化」として捉えてみる」「“障壁（バリア）” “ちがい” をエンジョイする心が大切である」「“ちがい” は自らの力を引き出してくれる」「みんな“ちがう” からおもしろい」などの言葉が印象的で、障害という“ちがい”に対して新たな視点を持つことのできる講義となりました。

午後は二人組で、一人が目隠しをし、白杖を持ち、もう一人がガイド役となってセンター内の廊下・階段・トイレなどを歩いたり、目隠しした人に折り紙の折り方を言葉で説明したりする等の「助け⇄助けられる」（ガイドヘルプ）ことを実際に経験しながら学びました。講座の途中には、堀越さんのギター演奏を聴いたり、自作の「ぼくとちがって」「世界をみたそう」の曲をみんなで歌うなど、研修室いっぱいに柔らかで温かな空気が広がる心地よい研修講座となりました。（講座参加者 42名）

〈研修内容〉

講義『心の障壁を越えて ～レッツ！バリアオーバー～』

講師 堀越 喜晴 明治大学非常勤講師、立教大学兼任講師

ガイドヘルプ活動の実際『helping and helped』

講師：堀越 喜晴 明治大学非常勤講師、立教大学兼任講師

ボランティア：小宮 功、市村君子（長野市「こまくさの会」）



受講者アンケートから

- ☆人間味あふれる堀越さんのお話に聞き入り、あっという間の時間でした。目が見えない方の心の内を知ることができ、「心の障壁」が和らいだように思います。
- ☆「違いのないところには成長はない」「違うものは力を引き出してくれる」ということから異文化交流・異文化コミュニケーションの大切さを学びました。
- ☆「違って面白」「違って好奇心」「違いをエンジョイする」という言葉が印象的でした。障害の有無にかかわらず、私たちの生活の中にも通じる言葉だと思いました。
- ☆目が見えない怖さを実感しました。でも、ふだん感じない風や音を感じ、手で触れる経験や相手への信頼感の大切など、いつもの生活との違いを思い知ることができました。
- ☆目が見えない状況がいかに不安なのかを体験しました。その不安を取り除くためにガイドの伝え方やコミュニケーションが重要であることを実感しました。

家庭・幼児教育講座

安心して子育てができるまちをつくろう ～親を育てる「子育て支援」～

平成22年9月27日（月）

午前の講義は、「今の子どもたちにとって何が幸せなのか?」「子どもたちの望んでいる支援は何なのか?」という問いかけから始まりました。【やってあげる】子育て支援から子育てを通して、同世代の親が学び合い・支え合い、親子が共に成長していくための子育て支援への転換が必要であることを学びました。

午後は、岡谷市更生保護女性会の方が市内21全地区で行なっている「乳幼児親子ふれあいの集い」という、身近な声のかけ合える地域での子育て支援実践やニュージーランドのプレイセンターを手本にし「自分の子どもは自分で育てよう」という基本理念を持ちながら子育て支援実践を行っている、みしまプレイセンターやプレイセンターピカソの活動状況を聞き、【親同士の学びあい】【親同士の子育ての支えあい】【[親と子][親同士]の育ちあい】等をキーワードに「親を育てる子育て支援のあり方」について考え合いました。久保田先生の「30年後親になる子どもを育てるのに、今の【やってあげる】子育て支援でよいか?」の言葉が心に残る、充実した講座となりました。（講座参加者44名）

〈研修内容〉

講義『親を育てる“子育て支援”』

講師 久保田 力（相模女子大学学芸学部教授）

事例発表 ○乳幼児親子ふれあいの集い（岡谷市）轟 文子さん、小口かつみさん

○みしまプレイセンター（三島市）小林 恵子さん

○プレイセンター ピカソ（国分寺市）足立 隆子さん

研究協議『わがまちの子育て支援』

コーディネーター 久保田 力（相模女子大学学芸学部教授）



受講者アンケートから

☆子育て世代が行政の子育て支援策に必ずしも満足していないことを知りました。また、公民館で企画する子育て教室を参加者主体のものにしたいと考えていたので、プレイセンターの要素を取り込んでいきたいと思います。

☆子育て支援に携わり、日々「子育て支援」って何だろう?と考えます。多種多様な子育て支援があることを頭に入れながら、子ども・親・携わる者共に成長しながら子どもの育ちを考えていきたい。

☆子育て支援って親の子育て放棄支援をしてしまっているようなところがどうしても納得いかなかったところなので久保田先生のお話で自分の気持ちの中を整理することができました。

☆親子が共に育つ支援をどのようにしていけばよいのか。親が学びあい、支えあうことのできる支援をどのように実現していったらいいのか。職場に持ち帰って考えていきたいと思います。

講義では、「シンプルで明瞭な語り口」「主人公を孤立的に語る」「極端だけれどリアルには語らない」等の昔話の持つ特徴に触れながら、昔話や語りを通して子どもが生の大人の声を感じ、体温を感じ、いつまでも耳に残る声の心地よさを積み重ねていくことの重要性について話されました。

また、子どもが好きなお話を聞くことを何度も求めてくることは、成長する(=未知の世界に入っていく)ことに対するちょっとした不安を、すでに知っているお話と再び出会うことで心を安心・安定させるためのもので、子どもの安心・安定した心が大切であることについてもお話されました。

子どもの目線に立ち、子どもの心の内側に立ち、子どもを信じることを大事にしながら語られる小澤先生の温かい言葉から、「子どもの心に寄り添うことの大切さ」や「語りの持つ可能性」についても考えさせられるような講座となりました。お話ボランティアの方々の読み聞かせや語りの実演もあり、昔話の世界にどっぷりと浸かり、語りの声や言葉に触れるの心地よさを感じながら、ゆったりとした時間の流れの中に身をおくことができた一日の研修となりました。
(講座参加者 167名)

〈研修内容〉

講義Ⅰ「子どもに伝えたい『昔話の心』」

講師 小澤 俊夫(筑波大学名誉教授、小澤昔ばなし研究所所長)

講義Ⅱ「昔話の持つ魅力」

講師 小澤 俊夫(筑波大学名誉教授、小澤昔ばなし研究所所長)

実演【語り】 小松 令子(岡谷市おはなしボランティア)

【読み聞かせ】高木千奈美(岡谷市おはなしボランティア)



受講者アンケートから

- ☆分かり易く楽しみながら聞きました。小さい頃父が語ってくれた「桃太郎」の替え話を思い出しました。語りならではの調子や雰囲気大切にしていきたいなあと感じました。
- ☆昔話をこんな切り口で考えたことがなかったので、驚きや新しい発見があってとても楽しく、改めて、身の回りの昔話を読み返してみたいと思いました。
- ☆絵本の構成、ファンタジー絵本の構図が詳細な計算のうえに描かれていたとは驚きでした。違ったポイントで絵本を読む楽しみがよく分かりました。
- ☆実演があり、それに触れながら丁寧に説明して下さったのでとても興味深く聞くことができました。普段聞くことができない貴重なお話で、生き方のメッセージも伝えてくださり、感謝です。
- ☆人から人へ伝えられてきた昔話は、これからも私たちが生の声で伝えていきたいと感じました。
- ☆読み聞かせや語りの雰囲気がとてもよく、お話に引き込まれました。「読み聞かせ」ってその人の味が出るので、すごく楽しいです。いいものに触れた一時でした。

これからの図書館像とは

平成22年11月9日（火）

午前の講義では、住民が自己判断・自己責任を求められる現代社会において、正確で十分な量の情報を提供できるのは図書館だけであること。また、情報収集の場として「マスコミ」「書店」「インターネット」等があるが、住民が求める体系的・網羅的な情報や関連する情報や隙間情報等について応えることは、有能な司書とデータベースを持っている図書館の最も重要な役割だという話をされました。

午後は、塩尻市・小諸市それぞれの図書館長からの事例を基にシンポジウムを行ないました。フロアからの話も交えながら、専門的な知識を得るにはインターネットでは不十分であること。情報のデータベースを充実させ整理し、利用者の求めに応じて関連付け、引き出すことのできる図書館職員の能力が求められていること。図書館を創ることは、建物を造ることではなく、図書館職員としての資質を高め、人を育てていくことにつながる等が話題となりました。講座終了後、今年7月にオープンした塩尻市立図書館（“えんぱーく”塩尻市市民交流センター内）を職員の方の案内で講座参加者が見学し、充実した出張研修講座となりました。（講座参加者 62名）

〈研修内容〉

○講 義「地域をつくる図書館」

講 師 常世田 良（日本図書館協会理事）

○シンポジウム「これからの図書館像を語ろう」

コーディネーター 常世田 良（日本図書館協会理事）

シンポジスト 内野 安彦（塩尻市立図書館長）

森泉 浩行（市立小諸図書館長）

○塩尻市立図書館（“えんぱーく”塩尻市市民交流センター内）見学



受講者アンケートから

- ☆図書館の本質についてわかりやすくお話していただきました。特に、図書館においてデータベースを整理していくことの有用性について理解することができました。
- ☆具体的な取り組み事例が多く紹介され、やってみようという元気が沸いてきました。図書館の役割を「知識と情報の共有」というコンセプトでまとめることは分かり易いと思う。
- ☆利用者のニーズに応じて柔軟に対応できる図書館でありたいと思いました。情報の量に埋もれず、うまくそれを活用し、人と人の結びつきを大切にしながらの提供に努めたい。
- ☆図書館のデータを活かして、利用者に提供できる「人」（図書館司書）の存在が一番大切だということが印象に残りました。
- ☆地域のニーズ、社会状況に合わせた図書館とはどうあるべきか。変わる図書館を目指していきたいと思えます。

生涯学習月間記念講座

「つながり」で紡ぐおらがまち ～地域力を育てる～

平成22年11月16日(火)

午前は、長野県教育委員会委員長：矢崎和広さんの「生涯学習と協働のまちづくり」と題しての基調講演により、前茅野市長としての「公民協働の“パートナーシップのまちづくり”」についての講義がありました。「市民が主導で行政が支援役に徹すること」や「実践する提言集団としての取り組み」の具体的な様子を通して、【地域におけるヒトやモノという宝を「探し」「磨き」「つなぐ」こと】の価値や【地域の人の可能性を信じること】の意味について教えていただきました。

午後は、新しい答申についての説明後、3つの分科会に分かれ、事例発表を基に日頃の取り組みの様子や課題等を出しあいながら地域づくりのあり方を考えました。

第1分科会は『社会教育委員の活動の様子や体験活動のあり方』、第2分科会は『通学合宿や地域活動への親の関わり方、学校支援活動のあり方』、第3分科会は『生涯学習推進に当たっての〔行政同士〕〔地域と行政〕の連携のあり方や各地域の生涯学習の現状』等が話題となり、活発に話し合われました。
(講座参加者 118名)

〈研修内容〉

- 基調講演『生涯学習と協働のまちづくり』
講 師 矢崎 和広 (長野県教育委員会委員長)
- 全体会『新しい時代にふさわしい長野県の生涯学習振興のあり方について(答申)の解説』
浦野 栄一 (長野県教育委員会文化財・生涯学習課主任指導主事)
- 分科会『こうして地域力を育てる ～わたしにできること～』
 - ①【生涯学習の基盤づくり】 早川ひさ子 (飯綱町教育委員会生涯学習担当)
 - ②【子どもの未来づくり】 上原 博信 (青木村教育委員会主査)
 - ③【地域コミュニティの再生】 永田 幸彦 (松本市中央公民館館長補佐)



受講者アンケートから

- ☆生涯学習と協働のまちづくりについて実践的な話が聴けて大変参考になりました。特にプラン策定における官民の役割分担の明確化や協働を進める上で、分野別ネットワークの整備から取り組むことの重要性について確認することができました。
- ☆市民も職員も「協働はしんどい」という話が興味深かったです。だからこそ茅野市のパートナーシップのまちづくりの取り組みはうまくいっているのだと思いました。
- ☆「私にできること」の切り口はこれから地域で生かす実践において重要だと思いました。飯綱町の具体的事例を元にして、それぞれの思いや意見が交わされ、参考になった。
- ☆個人の満足から協働のまちづくりに向かうのに、子どもを育てることを視点に生涯学習を進めていくことの可能性を青木村の取り組みの事実から学ぶことができました。
- ☆「公民館という空間の捉え直し」について、松本市の理念や考え方が参考になった。職員の資質向上や熱意の必要性とともに、茶飲み話も地域課題の把握において公民館の大事な仕事だと思った。

家庭・幼児教育講座

子どもの心根を感じよう③ ～発達障害の理解と支援～

平成22年12月7日(火)

「発達障害のある子どもたち」が自立して社会に参加し、その子らしく豊かな生き方ができることをめざして、私たちはどのような支援をしたらよいのかを講義を通して学びました。

保育や教育に携る方々が受講者の半数近くを占めた講座でした。支援者に求められるのは、一般的な発達障害の特性をよく理解し、子どもたち全体に配慮する（ユニバーサルサポート）と同時に、今、目の前で困っている子どもが自分の良さを伸ばし、自信を持って生きていけるような個別の支援（パーソナルサポート）であることなどを、具体的な支援方法を交えて話していただきました。

発達障害の子どもを支援する際に、「困った子」ではなく「困っている子」と捉え、「自尊感情を育てる」「成功体験を繰り返すこと」「経験とチャレンジすること」等を大事にしながら、安心感の持てる子どもとの環境づくりの重要性について話されました。「支援者になることは、子どもといっしょに歩むこと。【伴奏者】【伴奏者】でありたい。」そんな言葉が印象に残る講座となりました。

（講座参加者 51名）

〈研修内容〉

講義『発達障害の理解と支援』

講師 山下 雅史 総合教育センター生徒指導・特別支援教育部門専門主事



受講者アンケートから

- ☆公民館で青少年対象の事業の中で、「あれ？」と違和感を感じる子どもがいます。その子が問題を抱えているとは言えないと思いますが、この講座で発達障害について学ぶことができ、今後の活動に活かすことができるかと思っています。
- ☆1年ほど前に、次男が広汎性発達障害と診断されました。このような講義をお聞きしたいと思い続け、職場の方の紹介でやっと受講させていただけました。まだまだ先が長いですが、今回の受講内容を参考にさせていただき、がんばっていこうと思います。
- ☆今、見させていただいているお子さんを思い浮かべながらお聞きしました。「どうしたらこの子にとって一番か？」と考えながら接していますが、自分自身も余裕を持って子どもと接していこうと思いました。
- ☆ゆっくりと分かりやすく話していただき、発達障害について再認識することができました。山下先生の体験からご自身の気持ちを取り混ぜてお話いただいたのは、自分自身への励みになりました。

生涯学習推進講座

地域の笑顔で輝く子ども ～わがまちの学校～

平成23年1月28日（金）

午前は、野島先生から自分の縄張りを持ち他者を排除してしまう（「イワナ族」と呼ばれる）今の子どもたちの成長に黄信号の話をきっかけに、「地域の中にある学校の役割とは？」「学校支援ボランティアの活動を通して得るもの（【新しいことに出会う機会】【人と交わる機会】【人に認められる機会】）」「学校支援ボランティア活動の実際と課題やコーディネーターの役割」等について話していただいた。

午後は、ムラの中核を「学び」の場〔和田学校〕に据え、学校が中心になり、地域と中学生を結び付け、それが地域の元気を生み出してきている長和町と「地域総合クラブ」という形で小学校区毎に諏訪市全体で取り組み、地域コーディネーターを中心にしながら組織的に学社融合の活動に取り組んでいる豊田小学校区の事例を発表していただきました。その後の情報交換は、それらの事例を元に、「子ども」を中心にしながら【学校】【地域】【家庭】の三者が活動を通して支え合い、つながり合いながら信頼し合える関係を作っていくことの大切さについて考えあう機会となりました。（講座参加者 51名）

〈研修内容〉

○講義『わがまちの学校』

講師 野島 正也（文教大学人間科学部教授）

○事例発表

【長和町】

池上 良満（前和田中学校校長）

岩波 均（和田中学校教頭）

小平つや子（和田中学校教育サポーター）

【諏訪市】

大坪 久芳（前教育委員会学社融合担当）

藤澤 陽子（豊田小学校校長）

藤森 一彦（豊田小学校コーディネーター）

○情報交換『子どもの笑顔のために地域ができること』

まとめ：野島 正也（文教大学人間科学部教授）



受講者アンケートから

- ☆豊富な実践事例をもとに地域の学校支援の取組みについて理論的に解説していただき、とても分かりやすかったです。現在、コーディネーターとして関わらせてもらっていますが、自分たちの活動をマクロの目線で見ることができたと思います。
- ☆二つの発表共に地域性をうまく活かして活動を展開されていると感じました。コーディネーターやリーダーとなる方の存在も大きいですが、地域の方々の意欲をいかに引き出していくかが継続させていくことにつながると思います。
- ☆学校がキーとなって「地域」というものを動かしていることがすごいと思った。行政組織におけるひとつづくりや地域づくりは、社会教育の部分だと再認識しました。
- ☆アイデアの豊かさとそれが地域としっかりつながっていることに感心しました。情熱を強く感じ、この力が皆をうごかしていく。今の時代はこのリーダー性が大きな要素であると思いました。

パソコン講座

はじめてのパソコン

平成23年2月3日(木)、4日(金)

受講希望者申し込み数62名という大人気の応募の中、抽選によって決定された18名の皆さんが参加されました。初めてパソコンに触る方。ご自分の参加されているサークル活動の案内通知を作成したいと思って参加された方。地域のお知らせを文章で案内できるようになりたいと参加された方。今まで知り合いの方に任せていたご自分のお店のチラシを自分で作ってみようと参加された方。等々、それぞれの願いを持ちながら熱心に受講されました。

総合教育センター指導主事の指導や生涯学習推進センター職員のサポートを受けながら、一生懸命メモをとりながら文章を作成する方、昼食の休み時間もそこそこにパソコンに向かって午前の研修の続きを行なう方、初めて作った写真を貼り付けた文章をプリントアウトして満足気に見つめる方等の姿に出会い、「学ぶということ」の本来の意味を考えさせてもらえるような講座となりました。
(講座参加者 18名)

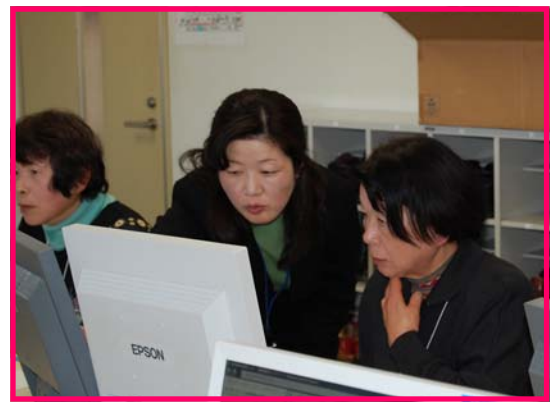
〈研修内容〉

実習 『パソコンの起動・マウスの使い方・キーボードの操作』

実習 『文章(Word)の作成・インターネットの利用』

実習 『文章(Word)の作成の復習』

講師 宮下 啓子(総合教育センター情報・産業教育部主任指導主事)



受講者アンケートから

☆文章の中に写真を取り込むまでできて、とてもうれしく思いました。

☆質問すると丁寧に教えていただいたこと感謝しています。覚えているつもりでも次やるとわからなかったり、やっぱり繰り返しが必要だと思いました。

☆家にパソコンがあっても使えなかったけれど、今回の講座で文章を作成することができてとても良かったです。楽しく受講できました。

☆自分で店舗を経営しておりますので、今までは友人に頼んでいたチラシ作りを自分でやってみたいと思っています。

天体観測講座

星空ウォッチング

平成22年5月13日（木）、11月24日（水）開催

5月の講座では、金星、火星、土星、11月の講座では、木星やスバル、M31星雲等を総合教育センター所有の8cm、50cmの大望遠鏡を使って見ていただきました。星についての説明や星座（ペガサス・カシオペア・ケフェウス・アンドロメダ・ペルセウス座等）に関わる話もあり参加者が星空の美しさや神秘を味わい、星空に包み込まれ、ゆったりとした時間の流れの中に身を置くことのできる研修講座となりました。

11月の講座では、予想以上の方の参加があったり、松本市の児童クラブの子どもたちの参加もあったりと、昨年の日食、今年の「はやぶさ」等を通して多くの皆さんが天体や宇宙に高い関心を持っていることを感じることができました。

総合教育センター専門主事の協力や百瀬さん（塩尻市）、中島さん（下條村）、村石さん（千曲市）、小澤さん、星さん（塩尻市星の会）のサポーターとしての協力をいただき、参加者が十分に星の魅力に浸ることができました。

（講座参加者：39名〔5月〕、123名〔11月〕）

〈研修内容〉

- 月や恒星、惑星、星座の観測会
- 星空案内DVD上映

講師：桐生 徹、中澤 美三、湯本 正芳、中島 佳明 専門主事（長野県総合教育センター）

サポーター：百瀬雅彦さん（塩尻市中央公民館）、中島義一さん（下條村教育委員会）
村石令子さん（長野県稲荷山養護学校）
小澤 靖さん、星 英夫さん（塩尻市星の会）



受講者アンケートから

- ☆金星・土星・火星がよく見えてきれいだった。（5月）
- ☆火星は望遠鏡で見たら燃えているようにきれいだった。（5月）
- ☆ギリシャ神話などの説明で、星や星座のことがもっとわかるようになった。（11月）
- ☆木星の縞を見ることができて感動した。（11月）
- ☆とても楽しく、素敵な時間を過ごすことができた。（11月）